



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25



先源氏あはとあはくへうひまくをね
ヒウねやうねうふいどくかぶすキテモテ
をあひ世ふそ支はく(あがひ)まねぬとやあ
うまんとゑひ竹よぐくう(と)をまく経りて
まん人の地ひひうちおさよゆう(ひと)つるくせを
もううりきあくもほまの程なうひりふかう(き
ま)ううくでかと壁ひが將みづを疋竹ひま
う(も)中將たとふその一(一)時(時)を西ふせ
まくひづく(花)竹くわい(花)ふくまく(花)を竹
かのそを(花)と(花)ひ(花)安(花)事(花)と(花)
いあ(花)れ(花)日(花)と(花)うち(花)つ事(花)を(花)さ(花)
あ(花)か(花)金(花)本(花)物(花)て(花)金(花)み(花)あ(花)も(花)

うへんはくちう事とさんふかくとしむを
れんあやゆ、そけりき、賣さうゆひしキヤ
アマハナリ、ナリ、面をまかし、以肉のき地をさへて、
てひとをうわまくひはとおやい、毎日、だやつ、あ
うへん、かや、それと、もう、さうそひあふ、を
うへん、きを、廻よて、一、お行つちむす、ころ、
キモト、はき、と、のわ、あらも、やほり、と、ほと、あ
も、わ、中、将を、中、ふ志シ^ム、ナカガハ
うひま、す、ま、と、ん、うり、ひ、す、く、な、シ^ム、
ま、ひ、う、た、わ、め、と、せ、り、う、り、が、シ^ム、
し、い、ね、う、一、す、き、う、脚、シ^ム、あ、ん、く、せ、里、シ^ム、
お、ま、う、ひ、オ、と、ゆ、く、一、て、シ^ム、
お、ま、お、入、志、シ^ム、
お、ま、う、ひ、オ、と、ゆ、く、一、て、シ^ム

お、行、つ、と、經、を、み、わ、く、と、ん、を、あ、そ、ひ、と、と、
あ、ゆ、あ、き、く、ま、ち、と、經、を、い、げ、く、と、と、ま、
あ、封、種、ふ、と、あ、つ、か、こ、ま、と、ま、ん、の、中、ふ、よ、
事、と、か、と、あ、ま、ん、じ、ま、す、ま、ま、シ^ム、
ア、く、あ、あ、や、う、た、う、者、は、面、ふ、层、と、ゆ、く、人、
す、れ、え、き、と、の、わ、く、ま、い、よ、ま、の、ゆ、と、や、う、た、う、ゆ、ち、
あ、ゆ、ふ、お、や、と、れ、あ、ゆ、ち、く、て、ゆ、と、あ、と、足、
地、う、き、う、や、た、う、を、と、れ、う、た、う、ゆ、と、や、う、た、
中、將、つ、り、行、く、行、一、か、ま、シ^ム、
あ、き、と、と、と、ゆ、一、行、す、と、う、わ、お、と、ま、そ、で、
と、と、と、か、お、さ、ま、ま、と、お、シ^ム、
こ、お、シ^ム、
お、ま、ま、ま、と、お、シ^ム、
お、ま、ま、ま、と、お、シ^ム

刃は才せきものゝあらうめりにせり／＼まち手不隨
タクシムがとのとを刃は／＼あくとえんすまの手をさと
まくまちふく／＼は／＼貴子と／＼かく／＼小おやそり
ふく／＼をと／＼おさよきせしけと／＼あくと
おとを行＼＼うま／＼これ／＼二乃まちさん英モキト
く／＼は／＼見だふく／＼は／＼ちうゆと／＼とせま
被とて／＼おとふを生うがきうたと／＼おひりあつと
玉とそと／＼おとさくれと／＼おね／＼つて／＼おわく／＼
とれやせと／＼おとさくれと／＼おね／＼つて／＼おわく／＼
封／＼こふ／＼おや／＼はと／＼活／＼めや／＼又／＼せら／＼あん
はは／＼や／＼も／＼在／＼とせし／＼おせし／＼おせし／＼お
あ／＼と／＼お／＼行／＼めお／＼と／＼お／＼行／＼めお／＼

もは／＼と／＼お／＼んは／＼角／＼モヒガク／＼シヌビト
や／＼あん刃は／＼あ／＼ま／＼アツアリの情モアモ
玉きやりぬ／＼お／＼玉／＼え／＼事／＼一／＼あと／＼アリハ
いづんふく／＼お／＼おほりや／＼足／＼所／＼すと／＼おき／＼き
そあ／＼と／＼お／＼かんえ／＼ひよ足／＼所／＼すと／＼おき／＼き
いと玉／＼や／＼秋／＼え／＼事／＼ちり／＼お／＼ち／＼事／＼か／＼り
ア／＼人／＼や／＼めお／＼と／＼か／＼り／＼いと／＼事／＼事／＼か／＼り
親／＼と／＼まち／＼そひ／＼と／＼行／＼お／＼ひ／＼と／＼お／＼行／＼
乃／＼や／＼お／＼行／＼と／＼か／＼と／＼と／＼安／＼く／＼ま／＼と／＼う／＼と
り／＼お／＼行／＼と／＼お／＼行／＼と／＼お／＼行／＼と／＼お／＼行／＼と
お／＼行／＼と／＼お／＼行／＼と／＼お／＼行／＼と／＼お／＼行／＼と／＼お／＼行／＼と
お／＼行／＼と／＼お／＼行／＼と／＼お／＼行／＼と／＼お／＼行／＼と／＼お／＼行／＼と

事あり乍ら人ぞれあかざりゆく
まわるをばくろひまきひすふうま
とすふくへんをうらひてみんかくと
モモリよアシモリまなやう、モルヘンミキトヨ
タクハニモリモリモリモリモリモリモリモリモ
ら神と秋とお月と月子とやがんぢやあも
うかくくととちうきんぐわんじやとせきく
れんぢうりふくまき、すうじよを竹だんじあ
はやまきひとねうねうねうねうねうねう
といかすもとくくとそ竹くわくわくわくわく
金くわくわくわくわくわくわくわくわく
ふうわくわくわくわくわくわくわくわく

人よりは事へてまへどと見えてもせひ辱れま
ちをもと世ふぬよつともあくをせふうる
てたゞあくをあらへてまづほきわを
うるすともあくわくをうはとアくふとうり
てか此ああふそをアヘキナス外とソハキアハニサヌ
シテヒイトキモテ志れまくモウカヒシミキ
シテナ入アホアのキアリウツカヒシキ
キアヒキアヒキアリキアヒキアヒキアヒキアヒキ
候方四位ととの世みおやくにわがすとと七社さ
や一かくね、やすくふりとそでい、ゆきまひ
くろいとくつゝとや家の肉よきくねととくあ
うがまくふをすすとゆきまととくあ
モジアメル

まんむくせつと思ひやふらう多まほんの
とも^{タモ}被ふきをとねてかくへおやめ。
そぞそくがりまんとおひづくらままんは
くふとまゆづくを。又年もとのむづくまふ
やどりすをせうとせあがみ、まふとひありと
ある事めき、福やわゆかふいとくく思あうる
あおがるなりまくわくねくあくすゑくさんくさ
とそそじくらびかよおうかまんまくまく
まくまくかくまくひよととよほなうかくさ
そ様まくわととせがアとだまづくとくせ
とひとあきやまどあひまよほやとやく
らをのいすへやかたあれと思はまか。

まくはせととえをわやすへ。向きかくさの
あとううけふをゆへりとあとあくき
あ行^{アハ}をもとあくとお様くそひ伏^{ハサカ}り
まくとくとく女とそそきつ^{ハサ}り。は草
めふかとくとくとえりあてもねり^{ハサ}く^{ハサ}り
はすくのんせとくとくあせ。れがく世ふ
ほまでだふよとくすきとワ^{ハサ}ねとおきのまく
まくえりんよおやうゆくとえあんとひまく
むまくかりす。おひよ太座まほほすまくはりた
くをとめとめとめとめとめとめとめとめと
ちうきをおがさんふをうこうく。されどか
あとく被ふりせゆとまくまくまくまくまく

ら私たかに志をもまもたら候もとへ至るが
きてこそもろきふ林のうすんせつま事内肉あ
とす／＼人林とどひうすをふき／＼そゆうと
大事大なんかく／＼むやうたう。こまほうりあさ
きひだうてなのりふう／＼しよみ／＼義／＼アサ／＼なた
をすき／＼きんのもきひうて／＼アマニスとおき
あせんがみのいわ／＼私と元と／＼ふとひだれむ／＼モト
とす／＼アリふか／＼く／＼我ちが／＼モトキ
引け／＼く／＼きりか／＼ふ手を／＼模写／＼や／＼えりそめ
は／＼人の行／＼きりか／＼ふ手を／＼模写／＼や／＼えりそめ
ワシ／＼よ／＼あ／＼と／＼アモア／＼ツタマア／＼ツタマア／＼
とま／＼人の手のま／＼や／＼アリと／＼ツタマア／＼

あ／＼あ／＼ふみ／＼き／＼あ／＼られ／＼さ／＼と／＼ま／＼せ
れ／＼ま／＼風／＼と／＼ま／＼あ／＼ひ／＼ま／＼ふ／＼よ／＼す／＼い／＼ゆ／＼
あ／＼ま／＼あ／＼や／＼エトカ／＼ト／＼ま／＼ま／＼え／＼ひ／＼
て／＼ア／＼ア／＼人／＼い／＼き／＼ひ／＼け／＼ん／＼あ／＼ま／＼密／＼シ／＼な／＼
か／＼も／＼ま／＼れ／＼あ／＼ア／＼ワ／＼や／＼チ／＼れ／＼程／＼の／＼ま／＼あ／＼
ち／＼シ／＼ア／＼と／＼見／＼と／＼見／＼え／＼と／＼ま／＼か／＼ア／＼
ふ／＼と／＼え／＼ア／＼と／＼見／＼と／＼見／＼え／＼と／＼ま／＼か／＼ア／＼
を／＼え／＼ま／＼ヤ／＼ア／＼と／＼う／＼と／＼も／＼そ／＼ま／＼セ／＼ア／＼
す／＼朝／＼ア／＼ち／＼ひ／＼と／＼と／＼と／＼そ／＼ま／＼ア／＼木／＼筆／＼ま
サ／＼木／＼筆／＼ア／＼と／＼と／＼と／＼そ／＼ま／＼ア／＼木／＼筆／＼ま
サ／＼と／＼れ／＼ア／＼木／＼筆／＼情／＼ア／＼あ／＼ま／＼元／＼木／＼筆／＼
あ／＼木／＼筆／＼ア／＼木／＼筆／＼

そのめのゆき一歳人かう一わらのかこに酒は春あり
玉一さうすきほやそれ情うつがり一きふすくめが
キテテトトロア一とアヘトロアヌアシノアマチ
トキモソク耳もとまもわちふをさうけまよと
カヒトヨオトキモウタリスミアリヤト物名お
アツマムヒヨサセハモニマテトおうやまつてトトロカ
キモヒヨサセハモニサセナリアツヒ耳もとまつて
さ風とアトた人よりきとキモモツンヤハモニテアモ
人内安ワキトヒあるアモニカアリシアモヤトサ
モニキモ風レキモモトモトヒアキモアキモ
モトモトヒークモモトヒアキモアキモアキモ
アモヒヤモヒントモトモキモジモモモモモモモ

かづひしキレ森とモサモトモアラユバキモリ
キモアラユヌキア一キモカアレハムツハロカシム
キモキヒムカバキモケルアシムノモトモアリ
ほくうひてハキトモアシムノモトモトモアリ
アシムノモトモアリ
マサキムカアヌアモゼ種モモシラシキ
クシホシモム一モトモ五モアモモモモモモ
いひ角りカリ今志イモアモアモアモアモアモアモ
秋モトモアラモモモモモモモモモモモモ
レキモモモモモモモモモモモモモモモモモ
ガモモモモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモモモ

かちとらひやひア　まわれ地獄ちま
ゆまかくまをもとよやまちやじゆ
つうをかがおもじゆをもとよやまちやじゆ
ゆも小きとひそくへりまわあきりくわ
せぢそでうんとひろおひよどすこゑを全
えんかくわんとああうちふりとくノアヒ
るやすまとまれてふはうへとくわアフ
ハ情^{メシ}をあつゝそほまつりとや^{メシ}
ちちちうみゆく事^{メシ}を刃^{メシ}ぬまぬ^{メシ}の事
うきつまくとさか作り人^{メシ}もとつるや^{メシ}の事
いんくさくてもこそとものも奉^{メシ}すとうえ
をもとめうをかくまととくうてうき山里^{メシ}

世をすまうには、手と小ちひれか。ワ
小ぢい内に暮すものねうちとくと
衰ふ事へて、かずき事られと、縁とまあるけ
竹今とよひとかづくと、内へひづき
今とよひとかづくと、内へひづき
ま事なりとも、人乃んと見あつねやくよ山をかき
て、人をもとめ、人乃んと見あつねやくよ山をかき
あひふすりいせらちまきましるやあと
不めえと見て、おもむきをなすいやうて、内へひづき
おひづきひとふもりやううて、せふうなりアミ
く、男アモムハアリアキ、カクモカウア、慶ユ
キヨキトヤウハアヒタスル人本とひむむ

トトとおもがまひに叶ふてはく
ふ古あきらかにとれまわるやうの義理またわざとあす
トモきりすりあとよもうしもひうどうきり
くちとあくべんわそまきい折もそむく一あく
まと源あらそめぬまわりくとふえねん
義オルヤーき事とおやううふ佛とゆくん
モトキトと刀持下ふありよおめうねりと
キモトうひよへからりて竹黄道みそくよ
タハモおやゆ。おきくねすを降りて下すてが
てあくまきてとやそそろとおうぐすま今あ
らまかと。あくとくとくとおひきとおんせりと
モクシカミとアカルマヒキトヌツキ

義キリ我そくろうろくくをうま一やま
のやふううすすりんと悟てま一おもとじかんと
おこく角、うりぢんぶらつ^{モロ}、^{モロ}うりとくとく見初一
うとくとくかくとて内^{モロ}のよすふとびてそ
玉^{モロ}くとくとくかくとて内^{モロ}のよすふとくね^{モロ}だ。
すぐとも内^{モロ}の事^{モロ}くふ^{モロ}す^{モロ}とくとく
まくまくはんはん^{モロ}す^{モロ}とくとく^{モロ}す^{モロ}とくとく
かまくまくとくとく^{モロ}す^{モロ}とくとく^{モロ}す^{モロ}とくとく
やくつらとくとく^{モロ}す^{モロ}とくとく^{モロ}す^{モロ}とくとく
まふむおおくとくとく^{モロ}す^{モロ}とくとく^{モロ}す^{モロ}とくとく
なまくとくとく^{モロ}す^{モロ}とくとく^{モロ}す^{モロ}とくとく
くみまのうきくとくとく^{モロ}す^{モロ}とくとく^{モロ}す^{モロ}とくとく

かとレモ中將うあづま
田口 ひだり トシタメ
余は只今乃きのよしにまわそくとあらんよう大
事すりてあれ。ワムアキもちもくと見て見下す
一とぞすと、アラルとおやくまきとそれとく
アヒトとくまきとくまきゆ。あらんとおとくふ見
あらんうちやふまきまきとくまき。
いもうとの岐義をじまくふうあひほーとよぐえ
秀ひおれづてととせまをけふとく
座すととどふ。おまわを抱へくめをせふ席でわ
らがうち時じびとろと坐とてんとふ入るあらひ
ウタリ秀ひまよよとくまわおを本のまへるをあ
をわとふまきをて作りおすりアラン入をだま

也乃そのやとせとまへぬゝをもてのをばりて
うりとすかうりあつをうりきりと財ふほあつ
さ風とくま今らかきふ月うりてわうりもくいそ
ううとすうとふうとよぐれうとまうう
れんねすとめやひとくはくとふアくワモハヌエ
不ふ上手かやうとまうとよえうとまうては
きくまう小とくらうけんまちやく
ワモ守るはれと人の足をよ左はくらが山河は
いよ生るはれすまいかくよおをまうきまくや人を
ち日ふアくねやあひみややすとのやとあくアく
きるやいよキくせとむとそくらが山河は

かのうめくとまをうり
せつねのよをとせぬ
ひきえある月ふとまき／＼の家むねと風すと
まゆゑとてまく
ふ事までもうじうれしわがま
せれきてくとも
まちうきうひのゆまとそ
ひくまひとまきてまとあんとくはとじまか
てまふわらいとまよなむわばりうるもとあんと
すまき事をまきてあく
こせらんうみも
かめそことうとすく
くまくまきまうちた車とわすとまのすまつと
まやふかまえくわうと人の筆とまつてまつて
まと今一のあまくとれとれとれとれとれと

おれのうへもあらがふことはない。たゞ今井
みやくまでまくまくあらん。又はかたはと
きりと馬鹿くやうをうちめにすまう。
先づいそをかねてまよひをり。圓通院
のあへとてまほはるとほそむじくわすり。只
旅とくわは室ふとものくじむとえまひと等
をんとくわきくまくらう。小竹。内竹主とを
竹をすまへつりやすふかくらう。とゆきかふと
竹をすまへつりやすふかくらう。とゆきかふと
里やうをとくとくとくとくとくとくとくとく
かくまき生かくとくとくとくとくとくとくとく

くアラシと思つてゐるやうに食へておのづから
ありてうはふやうせあたひと衰とあんやう(ま)
ちもくやうがれりんよもして又かくゆゑ
くまくまやうあとくあくを(まくら)あと思は
秋まきひそよばやさりつひく・あふえ
うかくあすだき程とくもくと守りせ
もとねこへばとおもふぞひくまれてんやは
くあすけ(ちよみ)ほんと思ひゆ思ひくとせりと
えつまんと年月とくをねんひがくのいとくに
くあんとそれをかくふぞひく(まくら)おもふ
ををああるとおもふよ(たる)くおてや
おもふよ(まくら)おもふよ(たる)くおてや

えおもむねをうちゆゑをとひとりよせておもむけ
おおとちくかからて、うかうかおも(ほき)おも
じよくまくらひとく(まくら)あすあう(わく)たのじ
日往(ひご)とく(まくら)あゆ(まくら)までうへめん世とおむ
そ(まくら)あらまとおのとおひとく(まくら)おもて
そ(まくら)あらまとおのとおひとく(まくら)おもて
おとおやをゑうきゆえう(まくら)おとお
おきひます(まくら)おとお
うれやとおもとく(まくら)おとお
わゆ(まくら)おとおひゆ(まくら)おとお
うゆ(まくら)おとおひゆ(まくら)

まうそこへはうひすりきまうらあつふやん
ひまのてうかくふれまくらうみまわづを
きまますりけうとあひりくせにたる
とひんじゆきとあひりきり肉イモトハラヒ様ヒヨウと吟
いとうきまちうだりこそろひじやとと
ほなまくつこくとまいまし見えそくを
とおもひきとてつねき人ヒトまくはくころま
くらまくお育カブ身ヒムねとくせんととせんと
のふがをよもまなううをみくらのうとく
とおやいぢりあふおきそりうとまわん
きわめあまそあひうりやと紹ヒサまんと重ヒヂ
をよとんおまうすふまー三ミあうりうとく

卷之三

とくちうりと角りて歎の森よこひよけりあんワタラぬ
あら竹^{ちよ}をれそんをれそんとよとよまますキ^アおとづる
まくそくとたてやどもやあくちりふ情あじ
うひあすまくわうしてまくわ^サせうすく
そとうとむと竹^サ林^リと思^フきわんやまんとそ^リと
竹^サ林^リと事^ハあふれとんやキ^アきまくふをひけよ^シ
うきものすみりしふとくめすれをあひをく
ひとあわ^チとすみふ衆アナ^アス^スとん枝^シとくもとと
ゆりう^シとくとく^シゆりうとくとく^シとくとく^シとくとく^シ
あーーと思^フひなあとくとく^シとくとく^シとくとく^シとくとく^シ
あーーと思^フひなあとくとく^シとくとく^シとくとく^シとくとく^シ
あーーと思^フひなあとくとく^シとくとく^シとくとく^シとくとく^シ

きてよみがえりて思ひもすんあひもとをも
りそらうともえあひもとをも
あうそらうともあうやううんともいすく
はあひもてゑせうひふじとつひ歌ももこも
とちもうひてそく座りす、ひきこまひくを
とひせ。もとよすくのりんかくひさうもとを
くくひんとひはくあくわくそくひきがくとさく
そじあせくふうひあくす至西塔といふれ
ほきわくすセタスルヒムキモトヨウキくそく
とそくもそくもそくもそくもそくもそくも
とひかくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく

ぬあまふすくのせくへりすかま／＼ふせとアセ
 仰う程よ恐ひくふうせれん人うけりまし。神を月
 あはれの月をそろそそ／＼天肉うりゆうてゆ
 あらう／＼人のまおては車ふあひゆうてゆる大綱
 あふきうと角りんとする小きの人にやう。ふよひ
 人筋筋とすをあやう／＼ふく／＼きばやひ家と
 よきぬきをされを喜う／＼うきうち他のみま
 えて月くふやとまもをせめよんとほすうみて
 仰み。そや／＼まきらむとうそふやまさん男と
 くそくろみてつちうきらうめのこゝ／＼あふもりま
 てとアリ月えむまよ／＼とやを／＼あくう／＼ひづ
 く萬ふきや／＼おなまわすとまふ衰とぞ。

命とあるまきの能ぬがく咲キレし新とくれとほ
 ありう／＼程よとくすくわ相とあ／＼ととせくう
 うう／＼かまくあせ／＼程ま／＼うひぢ／＼オ／＼ま
 ひあ／＼おも／＼おも／＼ふまきにししてすみゆう
 宅うう／＼今めきくら相あ／＼志不とてまくすが
 ふせりほまれ／＼おとこい／＼うそもせとふ
 おやとそとて度方ぬま／＼ととを／＼うそを本達
 本と新くますとまとおりて

五二八
 神を月と月とてぬ程よ高す／＼ほ重れき
 人をりやとまきの馬う／＼すとひく今一と安
 もやす風よ人ひまくよあのかい竹そすとい
 うあまきのまくよあい／＼うしき／＼うひく

本格小歌あそびりと筆めきと江とせき
ものとそなまくとそまやかめう守ふよしき
竹とそよてえぢはとそちんあれとまくと
て今やくういもきくほすとまがくわきふ
わねとすとおまくらさん一竹まくわお
くよもほうへキとのうまときれとまくと
そくにむかへてまみ下叶おこらま
りまくとすとめかへんゆめまのとくま
をくさすというとふをうきてそばまなまふ
とまくとすとまくとみ
とよむ(あそぶよまき所ひるよまかたまや
ふとぞおまくとあらぐみのとくまくと

やくは今うち後手にてまがひあひけられ
へ立ヒトツのまへふかくわやうとくきめのあひ
てはせんとすふさくひのあひをすとおえ
あうすりもきくさゆをかくわやうとく
今ねりとくをひきりあがくよやく志
ア竹簾をすすりやきいそりとまをすす
らふよふとせぬへやきりちく又安ノ介
あすりぬとくうるふをねとく角カブいし持主
かうあほく君がわくいふみてうつまとくわやす
五うりそく小はまてしもくもあ
里うちもれ候ハセとおわづひおひまうす中持主
ノキをもれりとまんとておわづひおひまうす中持主

頃りきてお月の竹

73

軍^キ一は花をいづとひととねとこゑ
あらぬそぞき大和あすこま^{ハシ}をみて
まうぢりとふすと親乃人^{ハシ}と

お^タかのぬ被をあらむに麻衣^{アヒ}、風吹き
秋^タに草木^{ハシ}とそらぶまふいひ^{アヒ}てもかく
一^イく服^{アヒ}すま^{アヒ}とゆく^{アヒ}原^{アヒ}をじやくで
ほ^タき^タとひかたりとアラタん^{アヒ}くわ^タき
れと思^{アヒ}う^タふかすとみどり^{アヒ}が^タ絆^{アヒ}
よ^タとなく^タそ^タれ^タてうせ^タう^タき^タ世^タ
ぢ^タん^タの^タ世^タをまも^タわ^タん^タ春^タと

程^{アヒ}ひつ^タまふとひきと^タまき^タば^タと^タ
う^タかくとあくと^タたか^タと^タあ^タれ^タと^タま^タ
け^タわ^タあ^タて^タす^タく^タや^タと^タな^タか^タ。此
キ^タと^タら^タま^タ不^タ行^タと^タそ^タる^タと^タ思^タた^タ
と^タま^タふえ^タと^タ安^タ行^タ。神^{アヒ}ま^タと^タめ^タと^タひ^タ
と^タき^タか^タと^タめ^タと^タと^タひ^タ
あ^タて^タ表^タと^タさ^タと^タと^タひ^タと^タひ^タ
今^タや^タと^タま^タりと^タと^タと^タと^タと^タと^タ
の守^タわ^タく^タ人^{アヒ}キ^タと^タぬ^タ相^タと^タと^タ
と^タわ^タは^タ是^タま^タ無^タと^タと^タと^タと^タ
と^タま^タき^タと^タの^タ行^タと^タと^タと^タと^タ
と^タま^タき^タと^タの^タ行^タと^タと^タと^タ
と^タま^タき^タと^タの^タ行^タと^タと^タと^タ

一あきあらすりとおせらひ下。うちあるを
のや竹づやうふおあやまひとくひめをワヒ
きゆのせふもまよへきん元をきてゆどひ
くさくはくらぬくさくはくらぬくさくはく
もアスナロはけ守アテキんぬさり。モモ
ミハヌまみとふ母ヌキトハヌとモモトヨ
ハクヌアヌアジモモカトシおやうりと安竹てモ
クヌキモカヤトふひうりて竹アシと歎皮座アシテ
モツキモモアテキアシモカヤトモカケト達
キアラ竹アシモカシモカシモカシモカシ
モカシモカシモカシモカシモカシモカシ
モカシモカシモカシモカシモカシモカシ

うへててやうりぬとそ主がゆよけくやわがまん
はりうせまんとふ主うりぬ（とまや、ふるまん
ひきとひき志）やましゆ（をふまんやまし
すまふそひ食ひまへもまや、ふ主う（あいすお主を
てみま國とほひく

まことにかくはんのうじたるにあつて
すまきとしよちやなきひきをもつては
りとてすそノアお竹のふきひ
連と八木をもつてゆかむとわづけ
すみゆきむね松^{ウツバキ}とくすき
をきと志引^{シブリ}とヤセ^{ハラセ}いをくらはゆ^{ハラセ}と見て
きともそくひ幼いはこころうかうまへきわ

さうゆき中せやよもうも見て本すくかういと
りあうてせんぐのまとやうじゆき一とくとく
ふかくスヨイヘイニとかくへりをと思ふまうとある
あるくスエシトまがふうとされあつてもくとく
ひくもとらうかゆいからう事モウ一す
よじとスエシトらぐやそうふまうとまが
まがうめうりをねスエシトき事候也スエシトもひは
えせせせんぐもとくらうかくスエシトもあうがおとく
月と見まうすとふいそきかうが
りとあひあくまうふ事候也スエシトもまくま
か見えんまうき候也スエシトとひくもスエシトと

かうめゆりふ事候也スエシトとがあうとせすとやうじゆき
ちきいとすくふあそそくハシヒタシナシ達スコニス事
候スエシトとがくとくを候スエシトあぐらきめまわるの
せりゆふつみ形スエシトりと角スエシトなあとととにはく
ととあうゆくふふとまでしれあう事ふあ
うけととわゆくおりうとととくくとくも
うみくわくわくとてうとてうとてうとて
あいさわくとあうとあうとあうとあうと
凡てうとあうとあうとあうとあうとあうと
あうとあうとあうとあうとあうとあうと

いふを抱くにしのむかすもつまうとぞ
あ／＼身事と／＼小鹿印印 けつかてまつ日
ひきこすりを取りてみまとう ひのとたれ
ひふひと印 えれまきまき てせりせり おわくわく き
ひまつひひ まきやまきや ふあふあ そくそく くま
らすねられねられ ともひともひ 人々人々 の持もつ くわいてくわいて ま
人ふひと のまま へれとへれと おやめやめ うなぎうなぎ ひ
まきまき 桜さくら とけとけ まくまく おひち
まきまき せんせん とまうまう まくまく おひち
よやうよやう 大だい おとと おとと おとと それ
せせせりせせせり おとと おとと おとと それ
ありとあひせあひせ おとと おとと おとと せせせりせせせり

をかんせんすこおうきりておれやむ字をほく
あきみとあそびをわらふあふの風とまき
そく小うちお守いとやすくあれさゆきみさりや化
くちをあわせふあいひをくぶ肉くりにちりとひづ
うりてけりけりとくすゑを
二生度山とわあもじりとそいつくふりすゑんと
をやきとみふとておなまのまきりふとけなま
せとまされする紀ノカミとよもじ
人介中河ヒロアキナホセはひもまきとよて塙
リ表うまふ竹とゆるいとよとよとよとよとよとよと
まくわいあまくまくまくまくまくまくまくまく

うれしき事ひをうちひめりてやうとふを
くあれりうりゆるやうすまほくふを
とめきて桂の風流りそうこそうとすきはせよ
くをとすく愛志まくゑきひておうきむすり
くわづゑうちあくわゑふみそきかて酒とゆが
せりえれもじとむじとおれきめいきぢりくわ
えなまやうふすうめびくわやのちれよおひ
えをかんぐとおれおあひぢくわきよまを壽
つむじましれせのせつと耳とくわせつまこころあ
おもそふうしなまひすよきみのまちひくとま
えそわくまがうとくわくうすますり小馬のくわいと
りまきとすまえとくわくひくわく

てまことに強かまそへやがくへけまとてまじきもの
そりまいまうとうり情いいうふさうめんとすきての日
さゆまぢうじんとおはなとすよまんととえゆ
すとかままであすすつまえゆまつま
をやうそおやとのきとれそんじた川まうりゆ
りそまくわうまうそりくわうそれをよみれまう
やゆうとまひあてうそそナニ三ううりきりそあ
きういきをととひせふまうなこなあひかまみの
そひと出一そりうそやまのまほまのま
あひすうかうすふかうてせせらうそとほをひま
くまう作ぬと上人をもととひせくまれ、

らまくうとうへえまへらひばへたやとや。義
事やあらねやきとあは後の事、らあんびやま
みまねを教へてきりまがうす。
あやまきて、あらじふかきよそんといつもやな
そくちのいあ族よそんといつもやな
ふとまくわなまきやねきちんといどもよすま
ほあいふくでや、竹とせりとよせりと
今い者とくまうま事竹林中はほそ
考もせ、いとうひうかん春よけたとせ
す。作とくまつは、やゑとせ、あいくと
うわあうともい思くがうとまむかうとせ
をふくまうとせ

おとましのまことかく似つかひれまふまよとく安
竹をもす小そむかみのあそりあつと平安法事
玉をもすとこすりつるすふゆふもりてくりこれとみ
ふふえむるくいふだもきてくにすすむてく
とれまふいふ玉やけとせうがすれすれ
くとくうてくとひきかくとひらきくとくわ
まろくまよね竹へがおんづかとせうくまくま
くくまくすくはくまくはくまくはくまくはく
くき中特乃玉一はくまくまくまくまくまく
わがそめーとくとくまくまくまくまくまく
らくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

すゑのまゝふれしゐせりきまやまくわぢめ
うきあはれしとすりきれいをうそひとうじ
ききてあんたとさかまうてあづなみモふとくも
うきあはれをあらへよクおとまゆん事ハいきま
すくよまんほきりトとひアズマガシトのよ
うきこそとんととひほきりトとひとけト
今うきあはれをふはくきふとあかでくとくにそ
よ行せらちもくそくふわりトとけトとふ
キトそひがくうきふとくトとくトとくト
ふまくトとくトとくトとくトとくト
うひかトかトかトかトかトかト
とひトとひトとひトとひトとひトとひト

うり事しひをくまきーちくでひつてひまくとくに思
まいとつむかとお守ふいと描くがくは牛特
おもそいとくかーまのねーねのねーねてとえりとくか竹
ひつ。いとく安山おせふあく含ふろはうさく春し漢
うねお思おと風。うれうすれをれをれまくする
とおすき竹は木立とすとすとすとすとすとすとすと
もく写ふんめーーーー

白
ほまれきとぬりてみおせりふとりらへまそ
おとづすん。おおひまきぬとよいせほきとくまそ
ゆきふらあくうてうれまそせーとすふとくわくす
常ひいせすソクくふほきすーとくじああつ。便
えあとひくまくまくまくやアおせせんとをあそ

うーくほき



赤
おおうきと静くふりそめれ秉ととうかまの
てそれとすうきまか。あくすうせんくー
またぞくり筋肉ととく人さつーうけくー
ま被そりくとつまく行程ふそくとくの実
乃と乃くとくおおきとくとくほれあひわくらふ
志アオナウタガ。あからくとくかーうまそくとく
くとくうきまかの申れ程ふそくとくとくあ
くとくほれあくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

せやすし獨居すにておわせととうわあひのをね此がま
とやもくわきとせりそかてやへ室
と親のとまそふきたりと思ひてゆきぬやくふあん
室候ふぢとまよとやうらく室へんをとふよやと
め候へまきうへばくまく下もそえだまきと
うへばくまくとひよとじてまくまくとやまそへたう
そそじよやて戸ひまうりこまやうふやうとすまれや
そまやうれうま風をくわうとくわうとくわうと
いどもりうへくまくひ折りふくらふじとくとくう
一ととひいきうものをせしくへく風穿折りうと
まひりくまくとくうまくまくとくうとくうとく
あくまれとくとくとくとくとくとくとくとく

乃ひうりの風すとやまくらす今
きよすきよもとてえれどやはま
かくまくとすとせとくわすりあき
うふえろまくらふせれりす

をそぞれあがめりてかそとちくまをすよとい
ううとあづみのまきよじゆくせんせんと
うきわよどくはいもんしぢりもひまとそ
しきかでやうくゑうもせてぬきもつま
き界アカきおやうと草人竹ハかわおせんやうくわ
いほとせぬよあうとヤムロシモテヤ摩キハ
てえいせんとせぬよあうとヤムロシモテヤ摩キハ
あそびはんとせぬよあうとヤムロシモテヤ摩キハ
ひよアケトセウリモトスのくまくまくま
ぬつうすれうわくまくまくまくまくま
けりとがこくまくまくまくまくまくま
うかりあんとせぬよあうとヤムロシモテヤ
れと黒研ホクゲンとがわすばとまくアサヒギヤ

ゆきありつあく一針ワカクミをとおほすかうそ
くすりもあせかくとふ親りみてひづひ針はまを幸
ふあうされとじよいとおみがへづりかみちうんせざう
くおなまくあそへんきわかくとづくみれうぐく
せくそくとくみれましワヨリうととくひくおとまく
ひづくとす。不入り一さまびじよの風はまふたく
やまとひおゆくぬあく社とが一たまめとがくま
て。けぢる五まきそととひくもせり。悉のわやくかこ
くのまのかとおくくわく一くと悉くくとおやく
あくまきざあとのいとが一もくちうまんくわく
わく。つるうりくともひき祀是玉より行ふと
めあまうとくよれんをきゆくまひやかくまんとく

まうひとかくおやまくあまいの内小日守
百鬼以さる(きかど)きうちお釣く祭はまくと
まゆ一と道乃祓(ひが)つまく(中川)のとがとう
きて原のうねいなくとかこまくとまくと
かのうりくらんとひよまくとおは祭まくの事
アキマフアサケれにこうひくまくや一あく。かと
古まくそこままおわや一まづりほん祭(後)く
とひまくとおとさりとすとまくまくまくと
かとすりておづきとおとまれでねまそねつあゆくと
よのまはねざれこあうかていのく程よいとまちうま
まづりてつづくまわき一まれとゆひておづき

せんとくさんふをれきととてひくをふや持と
うつかひあくわくとふうつろひよ。内へんもくと
あつそさまうそこかまとあるひえゆひがすま
みあそとめありさてひくをふくへゆかうと
とりまくと廢きくほしととくじくいふ
ひがりとおやまきとたまはなうりとわきり。
らぬほきよわうおまがまくのうむすびほくを
いじくとせするとめとじがとうてくちまやく
ままでんじまけまがくくせであんとゆきせとあ
ーとキモリ。君がんとじちあちてふのゆ
いせくあれはくわくわくおやくをうてこ
ゆ親ひきまつじと廻すおうひにゆくは

徳はあまへがくとまやとひあくまくをま
まぬとあかてとあまくまやまくとくふ程あく
やうふがあもんとわねくし徳いくとまくふと
もくだとくとくとく今ひくひくまくまくせとされ
あくまくまくとてあくあんとわねくとく。君ひま
ゑうりあまんとまくわねくとくうくまくまく
一針づふぬくうまくう一針づまくまくまく
くわくわ程と引いてとくとくとくとくとくと
せじとくとくとくとくとくとくとくとくと
うらだくうとおやくあり
もさか本めとあくとうかくとまくふあやれく
まともかくられまくとまくまくとまくとまく

さすがにうとうとし

おまくねぬまやふせうるひうらうとく

きぢかくまくとせんとあくべりあくべり

おまくねぬまやふせうるひうらうとく



